



レーザー電源のご提案

1 半導体レーザー電源の特徴

9kW_50kHzパルス 半導体レーザー向け電源

多相駆動スイッチング方式により下記特徴を有します

1 高速パルスと任意波形により切断加工の品質向上

熱伝導の高い材料（FRPなど）に効果的

2 90%以上の高効率

高いエネルギー変換効率で空冷の装置とした

3 小型軽量・コストダウン

シンプルな構造により小型軽量・コストダウンを実現

2 半導体レーザー電源の概要

スイッチングレギュレータの特徴

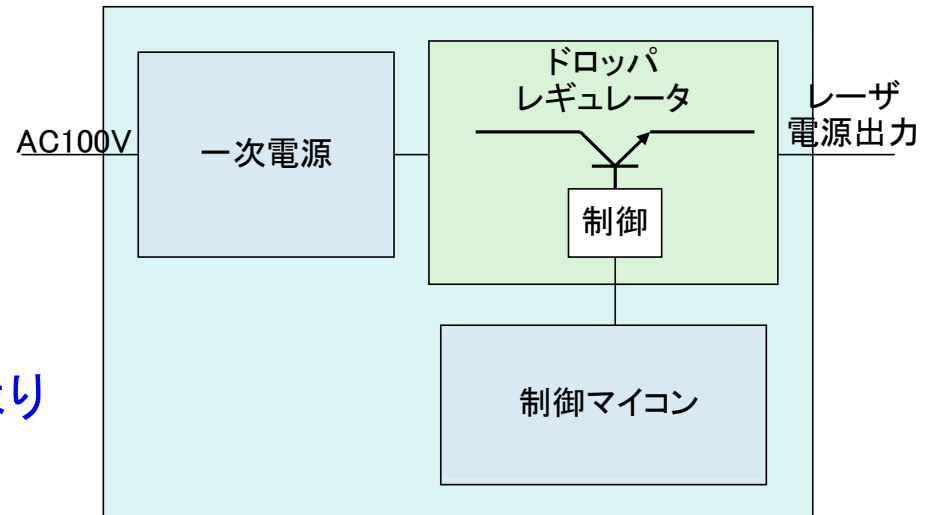
- ①高効率 90%
- ②小型、低価格

スイッチングレギュレータによる

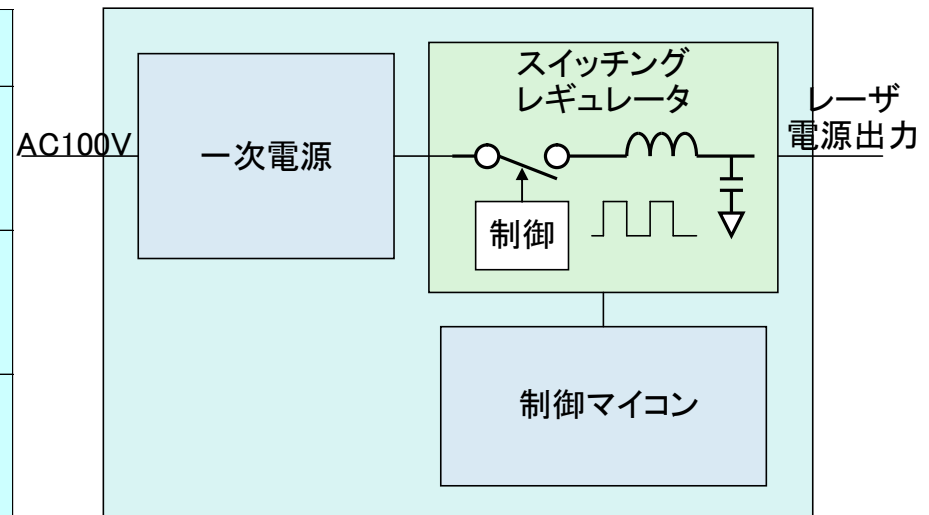
半導体レーザー電源

デジタル方式による多相駆動により
低リップルにて応答性を高める

従来

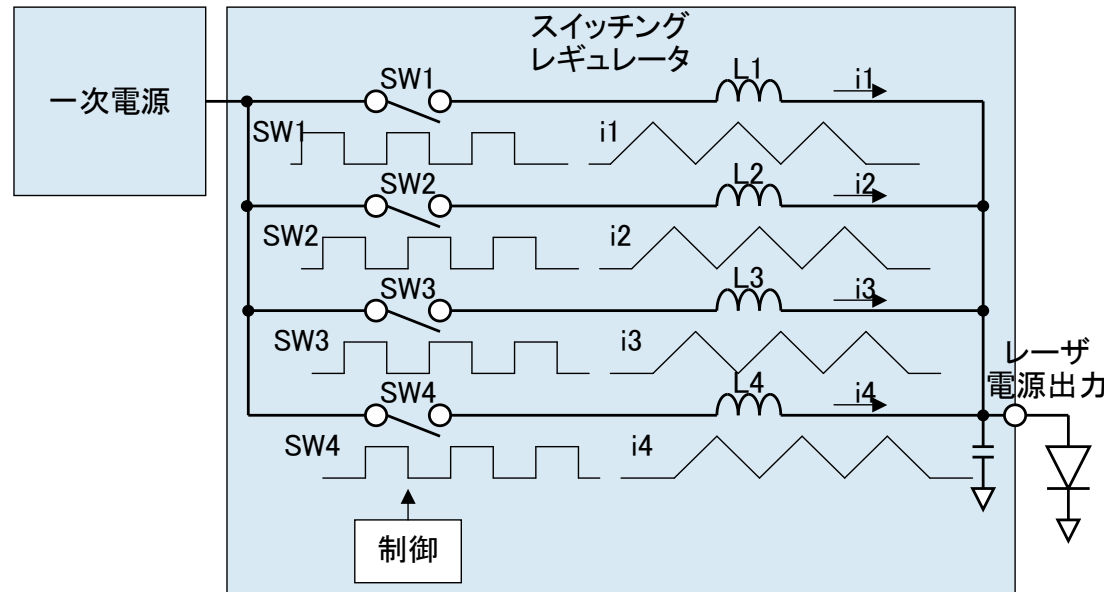


スイッチングレギュレータ

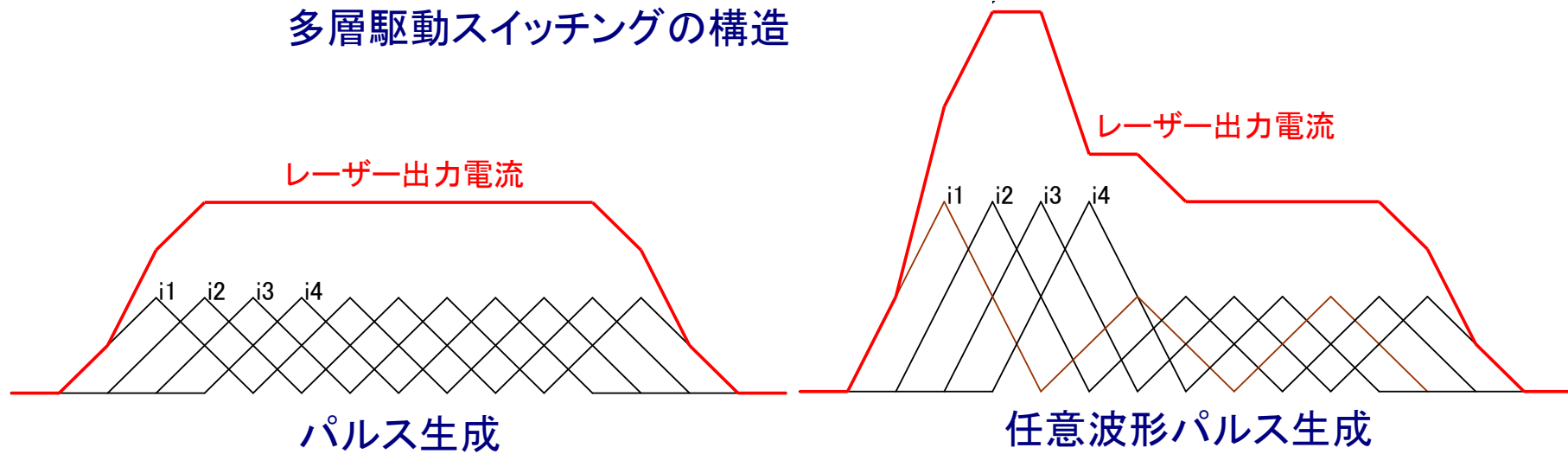


	効率	応答性	電流範囲	波形
ドロップレギュレータ	40~60% 発熱大	従来 10 μ s	100A以上	CW パルス
スイッチングレギュレータ	85~90%	10ms	30A以上は 応答性下る	CW パルス
新方式 スイッチングレギュレータ	90% 発熱小	5 μ s 以下	100A以上	CW パルス 任意波形

3 多相駆動スイッチング方式



多層駆動スイッチングの構造

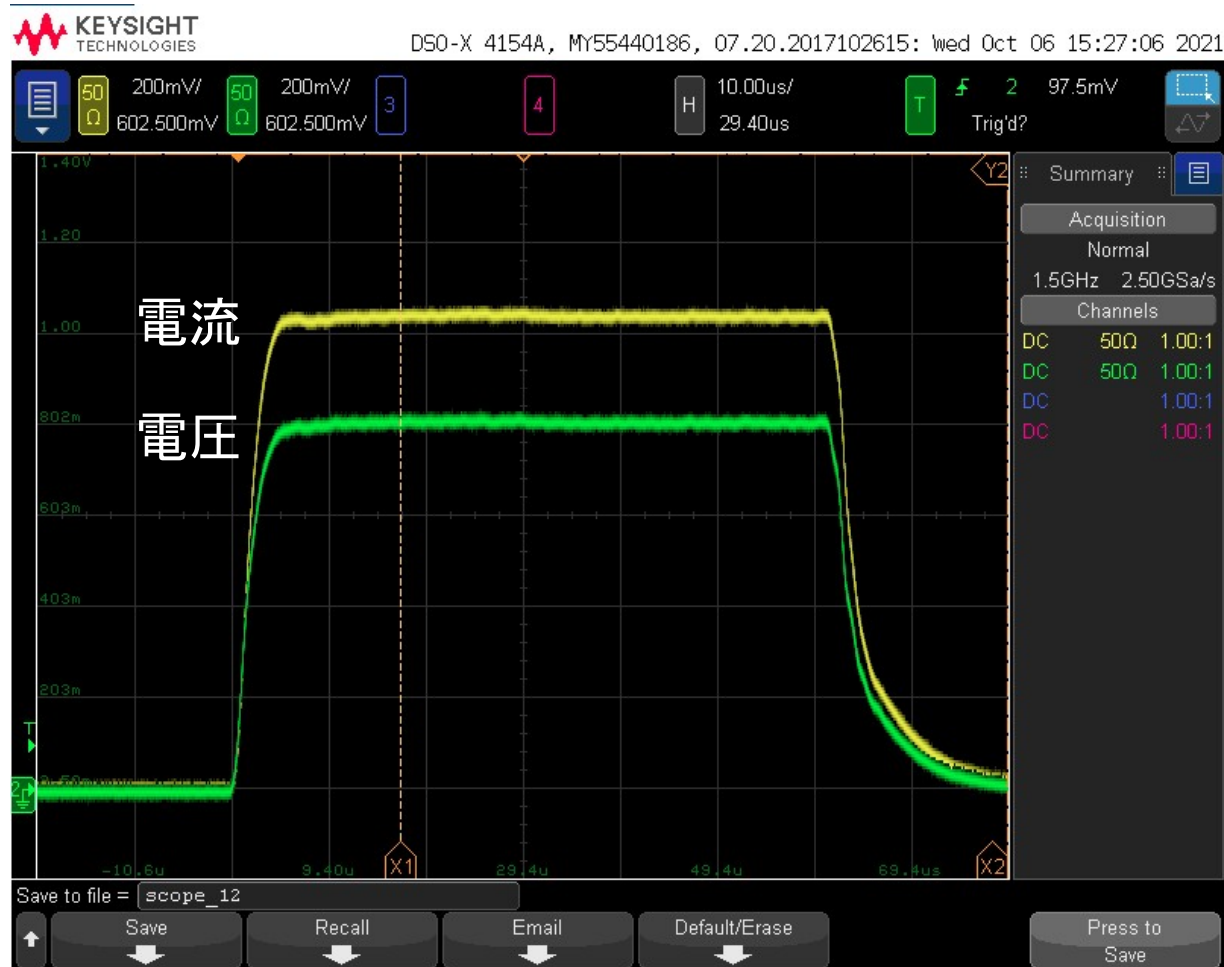


4 半導体レーザー電源の仕様例

最大負荷電圧	80V
最大電流	80A(CW) 115A(パルス)
最長パルス幅	100ms@115A
立上り時間	5 μ s以下(10~90%)
立下り時間	5 μ s以下(10~90%)
並列動作タイミング誤差	0.2 μ s以下
オーバershoot	3%以下
電流精度	± 3 A
効率	90%

5 半導体レーザー電源のパルス波形例

負荷 $0.47\ \Omega$ 電流 100A 時間幅 $64\ \mu\text{s}$ 立上り時間 $3.2\ \mu\text{s}$ (90%)



6 半導体レーザー電源の任意波形例

負荷 $0.47\ \Omega$ 電流 40A、25A パルス幅 $35\ \mu\text{s}$ 立上り時間 $2.5\ \mu\text{s}$



7 半導体レーザー電源の外観



8 高速半導体レーザー電源の目指すもの

